石渡家願書

P1

乍恐以書付奉願上候
御支配所
武州都筑郡荏田村
百姓
又五郎女房
そで
右之もの儀御吟味筋ニ付被召出候所、取留も
無之義共申立候ニ付、御吟味中宿御預被仰付置
一同奉恐入候、然所同人義全
御威光ニ恐入、女儀之事故取昇無跡形義
申立、今般之次第至り恐入、今更先非後悔
発明いたし、此上御調奉請候而者重々奉恐入
且同人実家王禅寺村百姓新五郎義
そで身分引請度旨、そで一同
御慈悲奉願上呉候様、私共江取縋り相歎き罷在
猶私共・已来右体心得違無之様精々

P2

如何之義仕出候共
御役所様者不及申、私共江も聊御苦難
筋相掛ケ申間敷、一札新五郎・取之堅
取極候間、何卒以
御慈悲此上　御憐愍之御沙汰
偏ニ奉願上候、已上
御支配所
武州都筑郡荏田村
そで組合惣代　惣八
嘉永二酉年八月
年寄　源之助
名主　金右衛門
茅ヶ崎村　〃　清左衛門

増上寺様
御代官所

P3

乍恐以書付奉願上候

一御霊屋料石川村・王禅寺村・川和村・方丈領
荏田村右四ケ村以惣代御願奉申上候、私共
村々之儀者山間ニ御座候故、猪鹿狼多出
田畑ヲ荒し、殊ニ人馬ニ当り難義仕候ニ付
毎々之通御鉄炮御拝借奉願上候
何卒以　御慈悲願之通被為　仰付
被下置候ハバ、右村々一同難有仕合ニ奉存候、已上

右四ケ村惣代
方丈領荏田村
百姓代
年寄
名主

嘉永五子年正月

御霊屋料
地方
御役所様

P4

乍恐以書付奉願上候

御支配所荏田村百姓銀蔵平日身持不宜
風聞を請、去ル六ヶ年已前　御出役先江被召出
御取調中村預ヶ被　仰付置候ニ付、是迄相慎
罷在候仕合ニ御座候間、村預ヶ御免被成下置候様仕度
奉願上候、右願之通　御聞済之程偏ニ
奉願上候、以上

右荏田村
御慈悲願人
銀蔵組合
百姓
長 □ 印
年寄
善四郎 印
名主
金右衛門 印
茅ヶ崎村
名主
清左衛門 印
徳持村
名主
惣代
与右衛門 印

嘉永元申年四月

御代官所

P5

乍恐以書付奉願上候

御霊屋料

武州橘樹群上野川村

百姓

古鉄渡世

善次郎

右之もの、此度渡世相休候ニ付、跡渡世之儀者

同州都筑郡荏田村百姓藤五郎江相譲申度

奉存候間、何卒以　御慈悲ヲ願之通り

御聞済被成下置候様奉願上候、以上

右

上野川村

名主

秀五郎㊞

荏田村

百姓

藤五郎㊞

同　村

名主

金右衛門㊞

寄場

上小田中村

〃　久右衛門㊞

弘化三午年

七月□日

関東御取締御出役

大熊左助様

P6

乍恐以書付ヲ御消帳御願奉申上候

一増上寺領武州都筑郡荏田村百姓源太郎親類

百姓小太郎御願奉申上候儀者、右源太郎女房

いく儀、去卯之十月七日風与罷出立帰りふ申候ニ付

同十一月廿八日当　御奉行所様江御着帳御願

奉申上候処、以　御慈悲ヲ願之通被為仰付難有

仕合ニ奉存候、然処いく儀当正月中同国橘樹郡

梶ヶ谷村親類蔵之助方江相便り来候而、風与罷出候義を

段々心得違ト存、達而相歎き候ニ付、此度御願奉

申上候儀者、何卒右いく儀以　御慈悲御消帳被

為仰付被下置候ハヽ、親類村役人一同難有仕合ニ奉存候、以

上

増上寺領武州都筑郡荏田村

百姓源太郎親類願人

小太郎

年寄　市右[redacted]

名主　久兵衛

文化五辰年四月

寺社

御奉行所様